

台風海難を防ぐためには・・・



事例1* は、時間に余裕を持って安全な海域に避難していれば、防ぐことのできる海難でした。VHFの常時聴取はもちろん、錨泊をする場合は走錨にも十分注意してください。

テレビやラジオ、海の安全情報等を利用し、最新の情報収集に努めましょう。



事例2* の台風は非常に強い勢力でしたが、陸揚げしていた船舶への被害はありませんでした。

小型船舶は陸揚げ・固縛が一番です。大切な船を守るためにも万全な対策をしましょう。



事例2* の中でも隣どおしの船舶を寄せ合って係留強化していた船舶は比較的少ない被害で済みました。

陸揚げが困難な場合には、台風の影響が少ない港内の船舶密集エリアで係留を強化しましょう。

来るぞ台風！ 備えはよいか？



自己救命索3つの基本も忘れずに！



ライフジャケットの常時着用



連絡手段の確保



海の緊急通報

台風対策は早めの備えが重要です！
作業中はライフジャケットを着用して自身の安全も守りましょう！

台風海難防止強調運動

南九州海難防止強調運動推進連絡会議

台風による海難事例

事例1※

2002年7月25日
台風9号における
志布志湾内
パナマ籍貨物船乗揚



23日 15:00

台風9号接近に伴い第一警戒態勢（警戒勧告）が発令。
志布志湾内で荷役をしていたC号は荷揚を中断。

24日 11:30

鹿児島湾に避難することとしていたが、台風接近まで時間に余裕があると判断し志布志湾内に錨泊。

25日 21:15

水深約10mの海底に乗揚後、強風と波浪により海岸近くまで打ち寄せられ、船体中央部から折損。

救命艇に移乗するも強風・波浪により危険な状況になったことから、全員船外に脱出。

乗組員19名中15名は付近海岸に泳ぎ着いたが、4名が死亡した。



事例2※

2015年8月24～25日
台風15号における
南九州西方沿岸
小型船舶転覆・浸水大発生



台風15号通過時、熊本海上保安部、串木野海上保安部、天草海上保安署管内で44隻もの小型船舶が転覆・浸水した。

九州・山口県の広い範囲で風による吹き寄せの効果や気圧低下による吸い上げ効果により潮位偏差が増大し、台風接近と満潮時刻が重なった鹿児島県では最高潮位が高くなっていた。

被害にあった船舶は、ほとんどが増しもやいなどの係留索強化を行っていたが、今までの経験を上回る勢力の台風だったため、多くの船舶が被害に。

